

あんなこと、こんなこと

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



・越前市

災害時相互応援に関する覚



4月15日～30日にあった
市内の話題を中心に
ご紹介します。

刃物の産地が連携協定

関市は、新潟県三条市、福井県越前市と、3市が有する「刃物」産業を接点とした交流をさらに発展させ、3市間の連携を促進させることを目的とする都市連携協定を締結しました。越前市役所で市長らが出席して、その締結式が行われ、締結書に署名しました。3市は今後、産業振興、観光振興、まちづくり、災害時相互支援などに関する事項について協力するものです。刃物という共通の地場産業がある全国の関係市との締結は大変意義深く、これからも連携を深めます。



小瀬鶉飼、活躍するぞー

一千有余年の歴史がある小瀬鶉飼の開幕を前に、2箇所の鶉匠宅で、46羽を対象にした鶉の検診と予防接種がありました。鶉匠が鶉を落ち着かせている間に、県中濃家畜保健衛生所の職員が、1羽ずつ足に伝染病の予防注射し、羽から採血。抽出した5羽の結果はいずれも陰性で、健康状態は良好でありました。岩佐昌秋鶉匠は「多くの鶉が遡上し、鶉が活躍できれば」と話しました。



プールの水もきれいに

環境教育の一環として博愛小学校5年生が、せき環境ネットワークの指導で、EM発酵液づくりをしました。「武儀川の自然を守る」をテーマに、プール掃除の際に川へ流れる水をきれいにするためEM菌を使おうと、全校児童にペットボトルや米のとぎ汁集めなどを呼びかけ、培養作業をしました。この後1カ月ほどかけてEM菌を発酵させ、児童は「プール掃除が楽しみ」と話していました。



水無神社に春が到来

富之保岩山崎地区の水無神社で、奈良時代から伝わる春の例大祭が開かれ、神様が乗った大小2基のみこしが栗野地区の仮宮まで約1キロの旅に出る「神幸渡し」が行われました。始めに、宮司らにより厳かに祭礼が執り行われ、続いて巫女の舞や、拝殿正面で地元の神楽が奉納されました。棒振りと呼ばれる鬼が行列を先導し、道中、多くの地域住民がみこしの下をくぐり、無病息災を祈っていました。



伝統のみこしを担いで

倉知地区の鞍知・白山両神社で「倉知まつり」が行われ、氏子ら関係者が当元宅へ行列をつくり、練り歩きました。かつては「けんか祭り」として知られ、一昨年までそれぞれ2基のみこしを出合わせ競り合う形をとっていましたが、担ぎ手の減少などにより現在は中止に。この日、鞍知神社では拝殿に大切に保管されているみこしが担ぎ出され、五穀豊穡を願って「さんやほう」の掛け声とともに境内を1周しました。



花飾り求め争奪戦

駆け抜ける馬の背の花飾りを勇壮に奪い合う「花馬まつり」が武芸八幡宮で開かれ、多くの観客でにぎわいました。この祭りは、五穀豊穡を願う春の例祭で、馬の背に飾られた和紙の花飾りを家の屋根に上げておくと、災厄から逃れられるといわれています。厳かな神事や児童らによる囃子神楽の後、花飾りを鞍につけた馬4頭が順に登場。観客は花飾り目がけて、暴れる馬の背に飛びかかり、まつりは最高潮に達しました。



元気に育て稚鮎

長良川中央漁業協同組合が、池尻の長良川河川敷で稚鮎の放流をしました。県魚苗センターで育てられた稚鮎は1尾10センチほどの大きさで、6月1日の友釣り解禁を前に、5月下旬までに約11トンを放流します。組合員が、ホースやバケツを使って放流し「今年は水量が多く、遡上もよい状況です。多くの釣り客に来ていただき、にぎわってほしい」と話しました。

こぼれ話

今月号の表紙と特集は、あんどんみこしコンクールです。昨年は中止となり2年ぶりに開催となりましたので、皆さん待ちに待った関まつりでした。4月21日(土)当日、私たち広報係は脚立とカメラを持って、ずっと写真を撮っていました。天気が心配でしたが、幸い雨は降らず助かりました。お昼過ぎにはパレードが始まり、関市幼年消防クラブ、関市消防団、陸上自衛隊などが次々と登場。子どもたちもカッコイイ制服の隊員や真っ赤な消防はしご車に大興奮の様子でした。どの団体も素晴らしいパレードや発表で、観客の注目を集めていました。

日が沈むと、いよいよあんどんみこしコンクールが始まり、特設ステージ前はすでに多くの人でいっぱい！私もお客さんと一緒に見えていましたが、大きなみこしが目の前になると大迫力で、思わず見入ってしまいました。担ぎ手やお客さんが一体となって盛り上がる「おまつり」はやっぱりなくてはならないですね。

市ホームページには、関まつりの様子の写真がまだまだ掲載されていますので、こちらもぜひチェックしてみてください♪

